



まちづくり NEWS

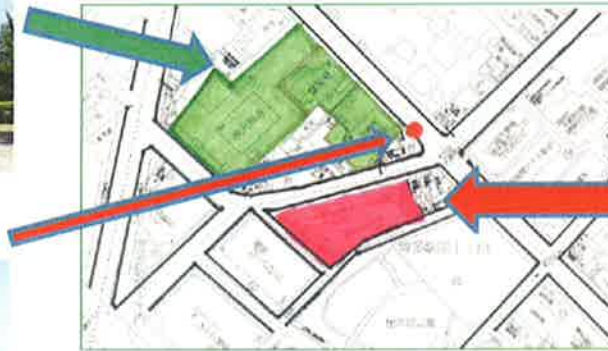
2013年
8月5日
No. 12

福岡・住環境を守る会
福岡市中央区六本松3-11-41
えいりんビル 3階
TEL:092-738-5256
mail : fukuzyu@eco.ocn.ne.jp

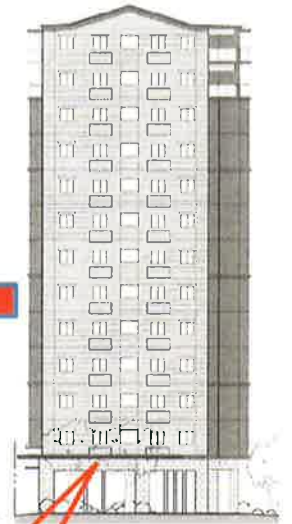
御供所のまちこわし



承天寺



博多千年門



予定建築物

借景 台なし友泉亭



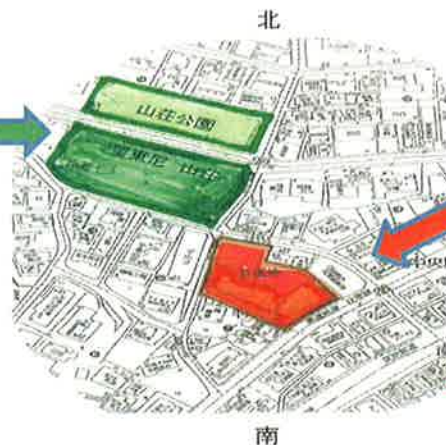
現地



平尾山荘の景観破壊



平尾山荘



予定建築物

歴史的景観を守るためのアピール

日本と同じ様に戦争で多くの町が破壊されたヨーロッパでは、戦前の町の歴史と文化を継承する町並みを再建しました。しかし日本では古いものを破壊し続けています。その結果、日本の町は清潔で新しいが、歴史性や文化性に乏しく、風格と個性のない町になりました。

福岡は二千年の歴史を持つ日本最古の町の一つです。しかし歴史的な建物は本当に少なくなりました。しかもその残された貴重な歴史遺産周辺の景観が壊されようとしています。

一つ、御供所町には、栄西が建立した聖福寺、謝国明が寄進した承天寺、空海が建立した東長寺など、全国でも有数の仏閣が集中する地域です。市はここに「博多千年門」を建てる予定です。しかし今、その真横に13階建のマンション計画が発表されました。

二つ、福岡市は来年の黒田官兵衛ドラマの宣伝をしていますが、その一方で黒田藩ゆかりの別荘友泉亭周辺の景観破壊を放置しています。今その横に12階建マンションが建設中です。

三つ、高杉晋作など多くの志士たちを匿った野村望東尼の平尾山荘は、維新の歴史を物語る数少ない歴史遺産です。この山荘横にも、9階建高層マンションが計画されています。

次から次に、貴重な歴史遺産の周辺環境が壊されようとしています。これは福岡市が歴史的建造物とその周辺環境を守る政策を持っていないことと、まちづくり条例を持っていないことから起きています。福岡市が観光客の増加を願うなら、もっと真剣に歴史遺産の周辺環境を守る手立てを考え実行しなければなりません。観光のためのまちづくりではなく、住み心地のいい住環境を造らない限り、訪ねたくなる町には繋がりません。

全国から賛同の声

鳥越俊太郎さん
(ジャーナリスト)

私たち日本人はヨーロッパの住民に比べると、これまで住環境、特に景観に気を使ってこなかった国民です。21世紀はまちづくりの基本に景観条例を制定し、住んで気持ちのいいまちづくりを目指していきたい。

五十嵐敬喜さん
(法政大教授)

神田 順さん
(東大・名誉教授)

住みやすいまちには、住まい手や周辺の人々の間での合意が元にならなくてはいいけない。今の建築制度の基本を変えていくためにも「まちづくり条例」の制定により、美しいまちが将来に引き継がれるよう応援します。

多見貞子さん
(東京駅の復元)

人口減少が明らかな時、景観を壊す高層マンションは、計画を見直して欲しい。経済活動とはいえ、次世代、そのまた次世代に想いをはせる発想を。

佐藤俊郎さん
(環境デザイナー)

アメリカの行政は『先住の市民の利益』を掲げて、開発する側に多くの責務を課しています。誰の立場に立つ行政か、今きびしく問われていると思います。

松居秀子さん (鞆の浦の保存)

野口和雄 (都市プランナー)、**稲垣道子** (都市政策研究者)、

景観市民ネットの**石原一子**代表、**大西**副代表、**井上赫郎**事務局長

景観と住環境を考える全国ネットの**日置雅晴**代表 (早稲田教授)、**小磯盟四郎**副代表、**渋谷修**事務局長

高川正義 (佐賀大名誉教授)、**堤啓次郎** (西南大学名要教授)、**中武一明** (九大名誉教授)